

11月県議会 一般質問(12月1日)

リニア中央新幹線

リニアバレー構想について

「リニアバレー構想」の現在の進捗状況はどうか。また課題をどう捉え、その課題解決のために県としてどのように取り組んでいく方針か？

A 知事…2次交通と観光の整備の取組は中々進展していない。「リニアバレー構想・実現プラン」の基本方針を定めて、喫緊に取り組む課題を整理した。地域の経済団体等とも意見交換や勉強会を行うなど、官民一体で取組の方向性を共有しながら、リニアバレー構想の実現に向けた取り組みを進める。

Q 酒井…飯田市の新市長は「JR飯田線のリニア乗換駅建設の市の構想を取りやめる」としているが、リニア長野県駅と飯田線との連結に関して今後どのように議論を進めるのか？



リニア整備推進局長

Aリニア整備推進局長…JR飯田線との乗換駅の設置については、飯田市がJR東海との協議を進めている。JR飯田線との接続確保は重要な課題であり、伊那谷全体の合意形成が重要。今後飯田市の考えや合意形成に向けた動きを注視しながら、伊那谷自治体会議での協議につなげていく。

※JR飯田線へのリニア乗換駅は建設されない見込みとなりました。

三遠南信自動車道について

三遠南信自動車道の開通のあかつきには時間短縮効果により、観光や産業振興に大きく寄与することが見込まれていることから、今から観光等の受け皿を整備しなければならぬ。

伊那谷や南信地域の発展のためにも、三遠南信道路とリニア中央新幹線の活用が極めて重要であり、両方が併用開始になれば、伊那谷は有史以来初めて長野県の南の玄関口としての大きな役割を果たすことができる。

Q 酒井…三遠南信自動車道の整備による効果を、どのように考えているか。また、その事業効果を伊那谷やその先へ波及させるために、どのような取組を行っているか。

A 建設部長…リニアと三遠南信自動車道の相乗効果で、観光振興、移住定住促進、物流や企業連携の強化など多方面での発展

が期待できる。県は関連道路の整備も進めながら、県内に広く効果について積極的に発信していく。



三遠南信自動車道 天竜峡大橋

が期待できる。県は関連道路の整備も進めながら、県内に広く効果について積極的に発信していく。

リニア建設工事に伴う発生土の活用について

リニアのトンネル掘削に伴う発生土を「伊駒アルプスロード」の盛土に使う案が浮上していることから、ルート上にある地域からは困惑の声が上がっている。

発生土の受入れによって道路の路盤高に影響するようでは、地元住民の理解は到底得られない。

Q 酒井…リニアのトンネル工事に伴う発生土の活用策として、今年度事業着手したリニア関連道路の国道153号「伊駒アルプスロード」の盛土に使う案が浮上しているが、この道路の整備に活用する予定はあるのか？

Aリニア整備推進局長…発生土置き場の候補地については県が窓口となって調整しており、市町村などが具体的な候補地の情報を県に提供し、県からJR東海へ情報提供を行っている。

「伊駒アルプスロード」への活用については、現時点では具体的な候補地として県への情報提供はないため検討する段階ではない。

「伊駒アルプスロード」への活用については、現時点では具体的な候補地として県への情報提供はないため検討する段階ではない。

※今後市が県へ申し出ない限りは、道路の盛土に活用されないことが確認できました。

県職員の人事制度

女性職員の登用について

管理職の女性職員は増加してきているものの、全国に比べればまだ少ない状況にある。

Q 酒井…平成28年「女性職員活躍推進計画」策定時のアンケートと現状を比較して、「管理職を目指したい職員」は増えたか？「管理職への昇進を望まない理由」に変化があったか？

A 総務部長…計画策定時と本年3月のアンケート結果を比較すると、「課長級以上の管理職を目指す」と回答した女性職員は4%増加して17%となった。「管理職への昇進を望まない理由」については、計画策定時と変わらず「適正な能力が不足しているため」との回答が多であり、職員一人ひとりの能力開発に向けた取組が課題。

Q 酒井…これまでの女性職員の管理職登用に係る取組をどう評価し、その上で今後

どのように登用を進めていく方針か？

A 知事…知事に就任した10年前と比べて大幅に増加したが、本県の女性の管理職比率は他の都道府県と比べて低い。現在検討中の新たな「男女共同参画計画」では、係長級以上全ての職において登用目標を設けて段階的・計画的に登用を進めていく。今後、企画・調整部門への配置や、他団体への派遣等によるキャリア開発の支援など多様な成長機会を付与すること、また家庭生活との両立を可能とする働き方の改革を一体的に進める。

※今後女性職員の登用が進むと思われれます。

現地機関の人員配置について

現場重視の意識を持って地域課題に積極的に取り組むために、特に地域と接する現地機関においては、異動サイクルは長い方が望ましい。

Q 酒井…県民の信頼と期待にこたえる組織づくりを行うため、県の現地機関の職員の人事異動について、専門性を必要とする職場においては、同一職場での在任期間を現状より長くし、管理的な職員以外については5年程度以上とするよう見直すことを提案するが？

A 知事…現在職員の異動にあたっては異動サイクルの長期化を念頭に行っている。社会環境の変化、行政課題の高度化・複雑化等に対応していく上で、職員が複数年にわたって業務に従事する必要は高くなっている。しっかりと成果を上げて県民サービスの維持向上につながるよう、

異動サイクルの長期化を行う業務の拡大について検討を進める。

※現地機関の職員の異動サイクルは、職種によっては長期化する見込みとなりました。

委員会活動

今年度は、コロナ対策を行う健康福祉委員会の委員長として汗をかいています。



みなさまの **ご提言** や **ご要望** をお寄せください。

酒井 茂 ブログ 随時更新中!

公式サイト: <https://shigeru-sakai.com/>

酒井 茂

検索



長野県議会議員 酒井 茂 事務所

〒399-4432 伊那市東春近原新田8243

TEL/FAX.0265-73-5606

E-mail: info@shigeru-sakai.com

携帯サイトへ簡単アクセス